

分析結果報告書〔6〕1/3

1. 6 模擬排水試料（アンモニア性窒素）

機関コード	
機関名	
電話番号	
国際的な認証等の取得（複数回答可）	1. ISO 9001～9003 2. ISO/IEC 17025(ガイド25) 3. MLAP 4. (上記1～3を取得していないが)品質マネジメントシステム(QMS)を構築している
分析主担当者 氏名	
経験年数(年)	() 年
実績(年間の分析試料数)	()
分析(主)担当者以外の分析結果の確認	1. あり 2. なし

<分析担当者の経験等>

分析の経験（PM2.5抽出液）	1. あり 2. なし
分析の経験（環境水・地下水・排水）	1. あり 2. なし
分析の経験（土壌）	1. あり 2. なし

<分析結果>

1回目(Nmg/L) 注1～3)	() Nmg/L
2回目(Nmg/L) 注1～3)	() Nmg/L
3回目(Nmg/L) 注1～3)	() Nmg/L
Z-スコアの報告書資料編への記載 注4)	1. 希望する 2. 希望しない

注1) 本調査においては、下限値を指定せず、各機関の検出下限値以上のデータを報告値とする。

注2) 検出下限値以上であった場合、JIS Z 8401 によって数値を丸めて有効数字3桁で報告値を記入する。

注3) 検出下限値未満であった場合、NDと記入するとともに、その後ろに検出下限値を括弧()をつけJIS Z 8401 によって数値を丸めて有効数字1桁で記入する。

注4) 分析結果を報告した機関が20に満たない際は、Z-スコアの報告書資料編への記載を行わない場合がある。

<分析方法等>

試料受取日 注)	()
分析開始日 注)	()
分析終了日 注)	()
分析方法	1. インドフェノール青吸光光度法 2. 中和滴定法 3. イオンクロマトグラフ法 4. 流れ分析法 5. サリチル酸-インドフェノール青吸光光度法 6. その他 ()
使用した水	1. 蒸留水 2. イオン交換水 3. 超純水 4. その他 ()

注) 半角で記入する 例: 2020/7/28

<蒸留法（インドフェノール青吸光光度法、中和滴定法、サリチル酸-インドフェノール青吸光光度法、流れ分析法）>

試料希釈率 注1)	()
試料量(mL)	() mL
蒸留フラスコ内の液量(mL)	() mL
吸収液 注2)	1. 硫酸 25mmol/L 2. ほう酸溶液 20 g/L 3. その他 ()
吸収液量(mL)	() mL
留出液の定容量(mL)	() mL

注1) 例: 試料を20倍に希釈した場合は20と記入する。希釈しない場合は1と記入する。

注2) ほう酸溶液は中和滴定法で選択可

<インドフェノール青吸光光度法>

留出液の分収量(mL)	() mL
ナトリウムフェノキシドとの反応温度(°C)	() °C
ナトリウムフェノキシドとの反応時間(分)	() 分
測定波長(nm)	() nm

<中和滴定法>

留出液の分収量(mL)	() mL
滴定量(試料平均)(mL)	() mL
滴定量(空試験平均)(mL)	() mL

分析結果報告書〔6〕 2/3

<サリチル酸-インドフェノール青吸光光度法>

留出液の分収量(mL)	() mL
サリチル酸ナトリウムとの反応温度(°C)	() °C
サリチル酸ナトリウムとの反応時間(分)	() 分
測定波長(nm)	() nm

<イオンクロマトグラフ法>

試料希釈率 注)	()
試料注入量(μL)	() μL
イオンクロマトグラフメーカー	()
イオンクロマトグラフ型式	()
区分	1. 電気的サプレッサー(電気透析型) 2. 電気的サプレッサー(電解型) 3. 化学的サプレッサー 4. ノンサプレッサー 5. その他()
再生液(サプレッサー用)	1. 使用しない 2. 使用する(溶離液) 3. 使用する(水) 4. 使用する(その他)()
検出器	1. 電気伝導度 2. 分光度 3. その他()
分離カラムの名称	()
溶離液	1. メタンスルホン酸溶液 2. 硝酸溶液 3. しゅう酸 4. その他()
18-クラウン-6の添加	1. 行う 2. 行わない
流量(mL/分)	() mL/分
カラム温度(°C)	() °C

注) 例：試料を20倍に希釈した場合は20と記入する。希釈しない場合は1と記入する。

<流れ分析法>

試料希釈率 注1)	()
蒸留操作	1. 行った 2. 行わなかった
試料注入量(μL)	() μL
測定方法	1. フェノールによるインドフェノール青発色 FIA 法 2. サリチル酸によるインドフェノール青発色 CFA 法 3. フェノールによるインドフェノール青発色 CFA 法 4. その他()
測定装置メーカー	()
測定装置型式	()
繰り返し回数(回) 注2)	() 回
繰り返し性 CV(%) 注2)	() %
測定波長(nm)	() nm

注1) 例：試料を20倍に希釈した場合は20と記入する。希釈しない場合は1と記入する。

注2) 検量線の間濃度の検量線用標準液を用いて繰り返し測定して繰り返し性(相対標準偏差、CV%)を求めている場合に記入する。

<標準液>

標準液メーカー名	()
使用時の濃度保証	1. 保証期間内 2. 保証期間超過
ファクター	()
Lot番号	()

<検量線> (中和滴定法以外)

定量方法	1. 絶対検量線法 2. 標準添加法 3. 内標準法 4. その他()
検量線の点数	()
内標準の種類	()
検量線の作成範囲 (Nmg/L)	最小() ~ 最大() (Nmg/L)
試料の指示値(対象物質) (平均)	()
試料の指示値(内標準物質) (平均)	()
空試験の指示値(平均)	()
検量線最高濃度指示値(平均)	()
分析方法検出下限値(Nmg/L)	() Nmg/L

分析結果報告書〔6〕 3/3

<試料の保存状況>

保存方法	1. 冷暗所保存 3. その他 ()	2. 保存しない (直ちに分析)
試料の保存処理	1. 行った その方法 ()	2. 行っていない
保存時間 (時間) 注)	() 時間	
保存温度 (°C)	約()°C	

注) 時間単位で整数を記入する (例えば、60分では1時間とする)。

分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点	
--------------------------	--

計算式	
-----	--